

神田俊一
吉田幸一
編

近世
前期

歌謡集

古典文庫

神田俊一編
吉田幸一

近世
前期

歌謡集

古典文庫

平成十年七月二十日印刷発行

非売品

集謡歌前期世近

編者

神田 俊幸

発行者

吉田 幸一

印刷者 白橋印刷所

製本者 共伸舎

発行所

114

0024

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 〇三(三九一〇)二七一七
振替口座 〇〇一九〇九一四五九七番

近世前期歌謡集

目次

〔影印篇〕

〔一〕 三節切初心書	(無刊記)……………	七
〔二〕 美楊君歌集	(慶長九年写本)……………	四
〔三〕 吉原名寄色竹	(元禄六年序文)……………	五

〔翻刻篇〕

一、 三節切初心書	……………	一五
二、 美楊君歌集	……………	一七
三、 宇堂(うた)の本	(寛永頃古写本)……………	一五
四、 新板おどりくどき	(貞享元禄頃刊)……………	二六

五、 吉原名寄色竹

元禄六年序刊……………三三

六、 哥さいもん名取丸

(善刊記・享保頃か)……………四〇一

解説

尺八と虚無僧の変遷

神田俊一……四六七

書誌

吉田幸一……四九一

凡例

一、近世の日本歌謡の資料集には、周知のように、『日本歌謡集成』（近世編は七卷七冊）、『続日本歌謡集成』（近世編は二卷二冊）、『近世歌謡集』（校註日本文学類従一冊）。また影印本には、『日本歌謡研究資料集成』（近世編十卷十冊）等があるが、本書には今までに未公開の歌謡を多く含む近世資料集や、未刊の近世歌謡類を収集した。

一、本書は、『影印篇』として「三節切初心書」「美楊君歌集」「吉原名寄色竹」を、『翻刻篇』として、前三書とともに「うたの本」「新板おどりくどき」「哥さいもん名取丸」を収めた。

一、翻刻にあたっては、できる限り原本に忠実にと心がけたが、だいたい次のようにした。

(1) 漢字・仮名の表記の別、送り仮名・振仮名等は原文のまゝとしたが、漢字は概ね現行字体にした。

(2) 資料集には、目録と本文の標題とに違いがあるものもあるが、すべての原文のまゝとした。

(3) 原本に「。」のついているものは、原本通りに。印をつけた。原本の句読点のないものは、読み易くするため適宜一字アキにした。

(4) 写本の場合は丁付をつけないが、版本の場合は、版心に書かれた丁付に従い、その下に表・裏（オ・ウ）の区別をし、各丁（裏）毎に改行した。

但し「新板おどりくどき」は一曲一枚ごとに寄せ合わせた本により、丁付がそろわないので、順序に従って丁付を付けた。

(5) 虫喰やブレによって判読できない所は 四角で囲み、推定できるときはその中に文字を入れた。

(6) 歌謡に譜のあるもの（例えば、「三節切哥証歌」など）影印篇を見ればわかるので、翻刻篇では略した。

一、本文の後に解説を記したが、「三節切」については、ご専門の立場から神田俊一氏にお願いした。ご執筆下さった神田俊一氏に心から厚く御礼申し上げます。

〔三〕 三節切初心書（無刊記）

三教切序

史^れ人^も其^も監^{かん}錫^{しやく}すらくめてさあ
ひびくうわぐうあひん
ものもゆり。其^も道^{どう}くれもらぬわ
やまはんこもひり。極^{ごく}たをへ源^{げん}
うとて容易^{くやうい}極^{ごく}事^じゆぎ
と秩^ちむのうへて図^ずと美^びひん
らうす直^{ちく}極^{ごく}うて後^{こう}てあさる人

うもらぬ橋ふもてこちのき
柏のゆびづついとえなにか
うらなぬ兒あひ道なうら
書とぬうとせむかやま
吹えりまはるるのく
らけあはれぬとらんか

きんぎょ

拾二箇月^{しゅうにがつ}乃^{なり}起^{おこ}ま^ま海^{かい}元^{げん}と^となる。

海女さん事代念がいの

道は新なる世に

清之味なるを

今更之

[illegible][illegible]

地中。所汲。是牛集三。帝切。以。

とて吃く書しめると就す書し

三篇切初の書目録

一節代三篇切の事付次の書目録

一三篇切指を并に圖立の事

一打指の所の證の事

一打指の所の證の事

一三篇切曉きり事。人々曉きりはるるを
付つた右みぎにこれをあげる人々一ひと人ひとか
かとも人々ひとのあらう先まづもありしを
ともともいて笑わらひて柏かしわのあらうは
らう。柏かしわのあらうともいて人々ひとのあらう合あひ
らうのあらうともいて事こと。先まづもあらうの
為ためともいて事こと。昔むかしのあらうともいて事こと
のあらう。調てう子しともいて事こと。ねねともいて事こと
のあらう。事ことともいて事こと。ああともいて事こと。

